



『論語』——私の古典

一 故事成語

- 画竜点睛……………高橋和巳
 - 病入膏肓……………歴代名画記
 - 杞憂……………春秋左氏伝
 - 塞翁馬……………列子
 - 吳越同舟……………淮南子
 - 孫子……………孫子
- 学びを広げる
故事をたずねる
故事成語のおもしろさ(合山究)

二 漢詩—近体詩

- 鹿柴……………王維
 - 宿建德江……………孟浩然
 - 涼州詞……………王之渙
 - 春夜……………蘇軾
 - 送友人……………李白
 - 送僧歸日本……………錢起
 - 登高……………杜甫
 - 遊山西村……………陸游
- 学びを広げる
詠詩の試み
『漢文を読むために①』近体詩の成立
- 史記……………司馬遷
- 鴻門之会……………司馬遷
- 四面楚歌……………司馬遷
- 項王最期……………司馬遷
- 学びを広げる
せりふの朗読

『史記』の文章を台本に見立て、せりふとして朗読してみると、登場人物の心情をより深く学ぶ課題が設定されています。

三 史伝

- 項王の生きざま……………司馬遷
 - 題烏江亭(杜牧)／烏江亭(王安石)／烏江(李清照)……………司馬遷
- 『漢文を読むために②』歴史はいかに記述されたのか

四 文章

- 漁父辞……………屈原
- 対立する人生観……………屈原
- 春夜宴桃李園序……………李白
- 日本永代蔵(井原西鶴)／奥の細道(松尾芭蕉)……………李白

五 思想—儒家・道家の思想

- 論語……………孔子
 - 子曰富与貴…／子曰道之以政…／子貢問政…
 - 孟子……………孟子
 - 無恒産而有恒心者／不忍人之心……………孟子
 - 荀子……………荀子
 - 人之性悪……………荀子
 - 老子……………老子
 - 大道廃有仁義／無用之用……………老子
 - 莊子……………莊子
 - 曳尾於塗中／渾沌……………莊子
- 学びを広げる
儒家と道家

六 小説

- 桃花源記……………陶潜
- 小国寡民(『老子』)……………陶潜

七 日本の漢詩文

- 自詠(菅原道真)／山茶花(義堂周信)／夜下墨水(服部南郭)……………千宝
- 悼亡(大沼枕山)／無題(夏目漱石)／送夏目漱石之伊予(正岡子規)……………千宝
- 航西日記(森鷗外)／池亭記(慶滋保胤)／取塩於我国(頼山陽)……………千宝
- 題不識庵擊機山図(頼山陽)……………千宝
- 桜巒春容(林鶴梁)鶴梁文鈔……………千宝
- 身近にある漢詩文……………千宝

漢詩、記録から江戸時代の名所案内まで、日本の漢詩文を幅広く、豊富に取り上げています。身近な漢詩文を探究することで、現代とのつながりを学ぶ課題も用意されています。



第一部

『莊子』と素粒子……

一 小話

- 不死之薬……………湯川秀樹
- 三横……………韓非子
- 不顧後患……………世説新語
- 諫言の方法……………説苑

二 史伝

- 史記……………司馬遷
- 廉頗と藺相如……………
- 完璧帰趙……………
- 刎頸之交……………
- 荊軻……………
- 風蕭蕭兮易水寒……………
- 凶窮而匕首見……………

三 漢詩—古体詩

- 学びを広げる 「列伝」にとりあげられた人々
- 桃夭……………詩經
- 生年不滿百……………文選
- 秋風辞(漢武帝)／飲酒(陶潜)／兵車行(杜甫)／長恨歌(白居易)
- 「参考」桐壺(源氏物語)
- 学びを広げる 朗読会を開く
- 人面桃花……………孟榮
- 酒虫……………蒲松齡
- 葉限……………段成式
- 学びを広げる 小説の翻案
- 「漢文を読むために③」 中国における「小説」

四 小説

五 「三国志」の世界

- 桃園結義……………
- 三往乃見……………
- 張翼徳大鬧長坂橋……………
- 学びを広げる 読み比べ『三国志』と『三国志演義』
- 進遇於赤壁……………
- 股肱之力……………
- 学びを広げる 「三国志」の世界
- 「古典の扉」 神様になった関羽

六 思想—思想と寓話

- 孟子……………
- 何必曰利／性猶湍水也……………
- 荀子……………
- 青取之於藍而青於藍……………
- 老子……………
- 天下莫柔弱於水……………
- 莊子……………
- 夢為胡蝶……………
- 列子……………
- 愚公移山……………
- 韓非子……………
- 聖人不期修古……………
- 墨子……………
- 非攻……………
- 学びを広げる 寓話の意図
- 「古典の扉」 諸子の思想と寓話

七 文章

- 師説……………韓愈
- 捕蛇者説……………柳宗元
- 赤壁賦……………蘇軾
- 学びを広げる 唐宋八大家

資料編

漢文基本句法 訓読で注意する語 漢文参考略年表 中国参考地図 春秋・戦国時代要図
 五行・十干／十二支・干支／度量衡表 太陰太陽曆／二十四節気／節日

大学入学共通テストでも出題された漢詩について、第一部で近体詩、第二部で古体詩を取り上げており、じっくりと学ぶことができます。

古文編の第二部冒頭と同様、文理融合の学びにもつながる、理系の文章を掲載しています。